

# Let's農業

第47号



・・・もくじ・・・

- ・ 関東農政局土地改良事業地区等営農推進功労者表彰・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 1
- ・ 国営緊急農地再編整備事業「茨城中部地区」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 3  
経営事例と営農の変化  
野菜を田んぼで作ってみました（高収益作物の導入に関する取組）  
水田農業の省力化・生産性向上に係る勉強会（直播栽培に関する勉強会）
- ・ 国営かんがい排水事業「荒川中部地区」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 8  
荒川中部地区営農検討部会（営農推進に係る講演会及び現地視察）
- ・ 各種参考情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 9  
全国の優良経営体事例、農林水産省各種事業の逆引き辞典

◇表紙◇

表紙は、本年度の営農推進功労者表彰受賞者「鈴木健次氏（スマイルファームスズキ）」が栽培している「スプレーぎく」です。  
スプレーぎくの主な花言葉は「清らかな愛」「あなたを愛します」「高潔」「気持ちの探り合い」です。これらの花言葉は、スプレーぎくの愛らしい花の姿や、菊が持つ気品に由来しています。  
菊の花は仏花のイメージが強いですが、スプレーぎくは明るい色やその花言葉からお祝いのシーンでのプレゼントにも適しています。特に「清らかな愛」という花言葉は、ウェディングブーケや結婚式の装花にぴったりです。

<編集・発行>

関東農政局農村振興部農地整備課  
さいたま市中央区新都心2-1  
TEL：048-600-0600



## 令和7年度受賞した2事例を紹介

令和7年度関東農政局土地改良事業地区等営農推進功労者表彰の受賞者が決定し、令和7年12月16日（火曜日）に表彰式を開催しました。表彰式の概要と受賞者の取組内容をご紹介します。



### 営農推進功労者表彰とは？

関東農政局土地改良事業地区等営農推進功労者表彰は、土地改良事業等により整備されたほ場や水利施設等の活用促進のための取組、生産技術の向上や農業経営の改善のための創意工夫によって、他の模範となり、事業及び営農の推進に貢献のあった方々（農業経営体と営農推進組織）を表彰し、その業績を広く紹介することを目的に平成3年度から実施しております。

### 令和7年度表彰について

令和7年度は選考委員会の審査を経て、飯島稔氏（国営荒川中部農業水利事業所推薦）、鈴木健次氏（国営三方原用水二期農業水利事業所推薦）が受賞しました。令和7年12月16日（火曜日）に関東農政局で開催した表彰式には、飯島ご夫妻、鈴木ご夫妻が出席されました。

表彰式では、開会にあたり、菅家局長から式辞をいただき、続いて選考委員会委員長である石井局次長が受賞者の受賞理由について審査講評を行いました。

事例発表では、受賞者から基盤整備（農業用水）の重要性や農地集積など取組を進めていく中でのご苦労などについて、熱心にご説明いただきました。

お二人とも表彰式の雰囲気緊張した様子でしたが、記念撮影では笑顔も見られました。皆様おめでとうございます！  
ご協力いただいた関係者の方々ありがとうございました!!!



飯島稔氏



授与式の様子



鈴木健次代表



授与式の様子



意見交換の様子

# 受賞者の取組内容

令和7年度の受賞者の取組内容をご紹介します。

それぞれ取り組まれている作物は、野菜、花卉とバラエティー豊かです。

各地区における営農推進の取組の参考としてはいかがでしょうか。

取組内容の詳細は関東農政局ホームページに掲載しておりますので、こちらも御覧下さい。

〔掲載アドレス〕

<https://www.maff.go.jp/kanto/nouson/shigen/R6hyoushou.html>



経営体

～新鮮は一番のブランド、農園から直送～  
飯島 稔（埼玉県深谷市）  
国営かんがい排水事業「荒川中部地区」

## 取組のポイント

- ①国営及び関連土地改良事業を契機に畑かん用水を導入。
- ②露地野菜から施設野菜を主体とする経営に転換。
- ③大手スーパーなど企業と直接取引を行うため、株式会社を設立し、ヤオコー、ベルク、イオンなど多様な販売先を確保。
- ④いちごやトマトを中心とする施設野菜の栽培に加えて、いちごの観光農園や野菜の育苗と苗販売も手掛けている。

### 【事業概要】

地区名：荒川中部地区  
事業種：国営かんがい排水事業  
関係市町：埼玉県本庄市、深谷市、寄居町  
受益面積：3,212ha  
工期：平成26年度～令和8年度  
事業目的：頭首工・揚水機場・用水路の改修等



トマト  
いちご苗



### 【経営の概要】

従事者数：30人  
経営面積：3.3ha  
主要作物：  
いちご 83a  
トマト 45a  
小ねぎ・小松菜 30a  
いちご苗 53a  
たまねぎ苗 50a  
その他野菜苗 35a など



農業用ハウス



経営体

一輪一輪、丁寧に育て上げ、みんなを笑顔にさせる～  
鈴木 健次（静岡県浜松市）  
国営かんがい排水事業「三方原用水二期地区」

## 取組のポイント

- ①花き栽培に必要な農業用水が安定的に確保されている本地区（自身の地元）で平成12年に新規就農。
- ②就農後、徐々に経営規模を拡大。
- ③農業用水を活用し、適切に栽培管理することで、開花・出荷時期等を調整し、スプレーぎくの周年栽培を確立。
- ④障がいのある方に年間を通じて働く場を提供するなど、農福連携にも積極的に取り組んでいる。

### 【事業概要】

地区名：三方原用水二期地区  
事業種：国営かんがい排水事業  
関係市町：静岡県浜松市  
受益面積：3,310ha  
工期：平成27年度～令和8年度  
事業目的：取水口・水管理施設、用水路の改修等



ハウス内の様子



### 【経営の概要】

従事者数：10人  
経営面積：0.7ha  
主要作物：  
スプレーぎく 0.7ha  
※夏ぎく、秋ぎくなど  
14品種を栽培



スマイルファームスズキ

経営理念は  
「みんな笑顔」

色とりどりの  
スプレーぎく

# 国営緊急農地再編整備事業「茨城中部地区」の取組

国営茨城中部地区（茨城県）では、農地整備により区画整理、暗渠排水の整備等を行っています。事業によるほ場の大区画化や排水改良をきっかけとした担い手農家の取組や地区の営農状況、営農推進の取組（実証調査、勉強会）などを紹介します。

## ◇ 事業の概要

事業種：国営緊急農地再編整備事業  
場所：茨城県水戸市、茨城町  
受益面積：652ha（水田、普通畑）  
事業期間：H28年度～R15年度  
主要工事：区画整理



## 経営事例 1

大区画化ほ場とスマート農業等の導入による水稲の大規模経営  
～茨城県水戸市 吉川 勝久氏～

## ◇ 経営体の概要

事業実施前：平成27年  
基幹作物：水稲  
経営面積：49.0ha

現在：令和7年  
基幹作物：水稲（コシヒカリ、あきたこまち、  
にじのきらめきなど多品種を栽培）  
経営面積：90.0ha

## ◇ 取組の経緯と経営転換のポイント

### ①規模拡大

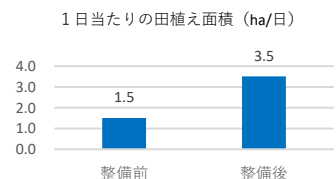
整備前は49haで水稲を栽培していたが、事業を契機に地域の農地を引き受け、経営面積は90haに拡大。整備前は10～20a区画のほ場であったが、事業による整備後は最大2.2ha区画に大区画化され、集約化されたことから効率的な営農が可能となった。

### ②収量の向上

J Aと相談しながら茨城県で育種した新品種を導入し、生育や収量の良い品種を選抜して栽培。特に、J Aに出荷する輸出用米や卸業者へ出荷する業務用米は、より多収量な品種としている。また、事業によって暗渠や給水栓等が整備されたことで、排水性や用水不足等が改善されたことで収量が約1割向上し、多収米品種で約10.5～12俵、コシヒカリで約9俵となっている。

### ③省力化

事業を契機に6条植からGPS付きの8条植田植機に切り替え、大区画化と集積・集約化の効果もあり、整備前は1.5ha/日が限界であった田植え作業は、3～4ha/日まで可能となった。また、事業を契機にドローン2台を導入し防除作業等を実施。これにより防除作業等も大幅に軽減(90ha/10日)されるなど、作業の効率化・省力化を図っている。



1日当たり作業面積の変化



ドローンによる防除作業

## 経営事例2

大区画化されたほ場で野菜を導入、周年栽培体系を確立  
～茨城県茨城町 萩谷 喜一氏～

### ◇ 経営体の概要

事業実施前：平成20年  
基幹作物：水稲、ほうれんそう、らっきょう、ねぎ、スイートコーン等  
経営面積：5.7ha

現在：令和7年  
基幹作物：水稲、ねぎ、スイートコーン、ブロッコリー等  
経営面積：12.0ha

### ◇ 取組の経緯と経営転換のポイント

#### ①規模拡大

就農当初は、水稲主体で5.7haの経営面積であったが、周辺の畑を借りて徐々に規模拡大を進める中、事業によって整備された大区画化ほ場では積極的に野菜を導入。現在では野菜作を中心に12haにまで経営面積が拡大。

#### ②作物の変化

就農当初は、ほうれんそう、らっきょう、ねぎ、スイートコーンなどいろいろな作物を試行錯誤しながら栽培。その中で、ねぎは初期投資や経費を押さえて栽培できること、さらに、ねぎは作型も多いため、品種や作型をうまく組み合わせて栽培することで、年間を通して収穫等が可能となることがメリットと考え、ねぎとスイートコーンを中心とした経営とした。

#### ③収量・品質の向上

スイートコーンの栽培では、畝幅を180cmと広くする（通常は150cm）ことで、効率的・効果的な栽培管理が可能（風通しが良い＝病気に強い、作業がしやすい＝適正に作業）となり、糖度が18度以上を確保するなど品質の良いものを栽培するよう努めている。また、水田畑利用の場合は水持ちが良いので枯れることもなく、収量が1割程度高くなっている。



ねぎの栽培状況



スイートコーンの栽培状況

## 営農の変化

### スマート農業の普及・拡大

○ほ場の大区画化や集積・集約が進むにつれ、スマート農業への関心も高まり、担い手農家を中心に、8条田植機や60馬力超のトラクターといった大型機械や全地球測位システム（GPS）機能付きの農機の導入が進んでいる。

○また、農薬散布や追肥作業でも活用可能なドローンへの関心も高く、ドローンの導入も進んでいる。

さらなる推進に向けて

○スマート農機や、農業水利施設の監視・操作にも活用可能な無線基地局RTK-GNSS基地局等の整備に向けた検討を開始。



直進アシストによる田植え作業



ドローンによる防除作業



## 野菜を田んぼでつくってみました ～高収益作物の導入に関する取組～



関東管内では、国営緊急農地再編整備事業「茨城中部地区」をはじめ、多くの地区でほ場整備事業が実施されています。ほ場整備事業により区画整理、農道を整備することで、作業効率が良くなるほか、排水路やほ場内暗渠を整備することにより事業実施前と比較して、ほ場の排水性が向上します。排水性が向上することで乾田化し、麦、大豆、野菜などの畑作物の栽培も可能となります。

そこで、関東農政局では、(国研)農業・食品産業技術総合研究機構及び地元関係機関と協力し、国営茨城中部地区に調査ほ場を設置し、しょうが、かんしょ等の栽培実証調査を行っています。

その結果、ほ場整備によってほ場の排水性が向上していることが確認できました。一方で、水田で野菜等を栽培する際の課題も見えてきましたので、本年度の調査結果を簡単にご紹介します。

### ◆調査の概要

国営茨城中部地区において実証調査ほ場を設置し、以下の項目を調査。

- 調査項目：土壤水分（100g当たりの水分割合）  
※地表から5,15,25cmの深さで観測
- 地下水位
- 収量調査（農家聞き取り＝出荷量）



土壤水分・地下水位計



かんしょの収量調査

### ◆調査結果（しょうが）

しょうがは水分が必要な作物で、望ましい地下水位は-10cm～-40cmとされています。

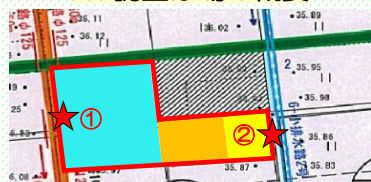
今回の調査ほ場は、隣接する水稻栽培ほ場の影響で、地下水位や土壤水分が想定以上に高くなりました。これにより、苗や塊茎に生育停滞が生じ、収量にも影響が及んだ（収量が低くなった）と推察されます。

今回の調査結果より、ほ場の選定がとても重要となることが分かりました。次年度はほ場選定に留意し、調査を実施する予定です。

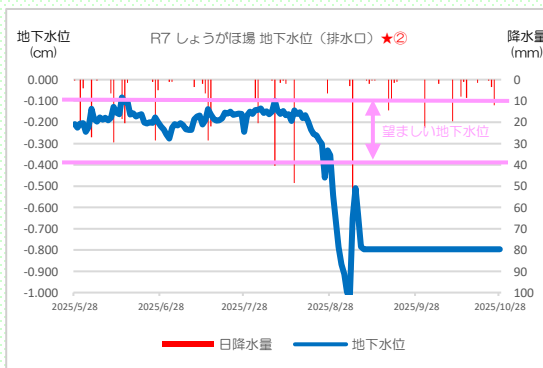
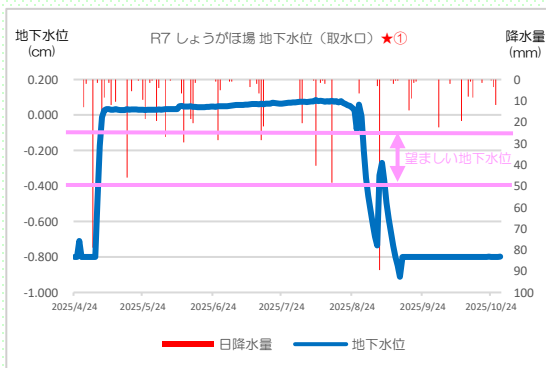


しょうがの生育状況

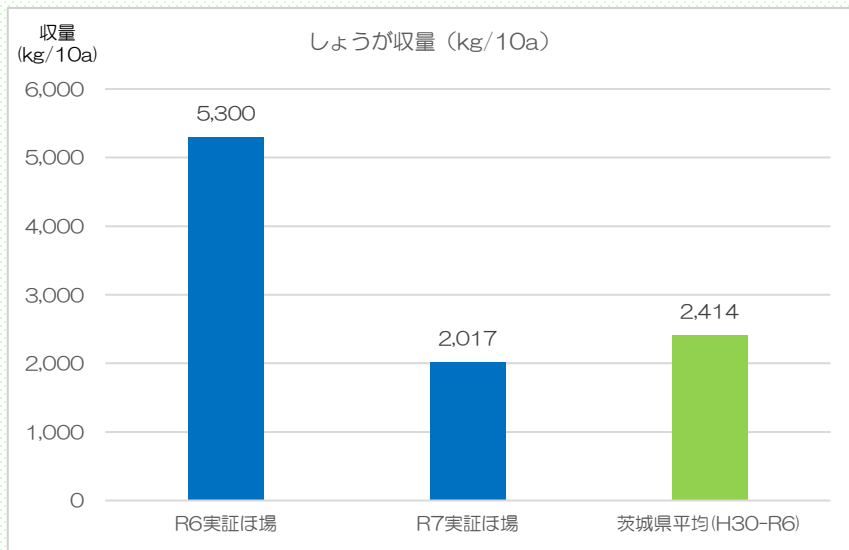
### R7調査ほ場の概要



- ：調査ほ場
- ★①：地下水位観測地点（取水口）
- ★②：地下水位観測地点（排水口）
- ：水没区域 → 苗が成長せず（＝収穫できず）
- ：収穫区域（地下水位10cm以上と推察）→ 生育が停滞（＝収量に影響）※推察
- ：収穫区域（地下水位10cm以下）



農家からの聞き取りでは、10a当たりの収量は2,017kgとなり、茨城県の平均収量 2,414kgと比較すると約13%低くなりました。



◆調査結果 (かんしょ)

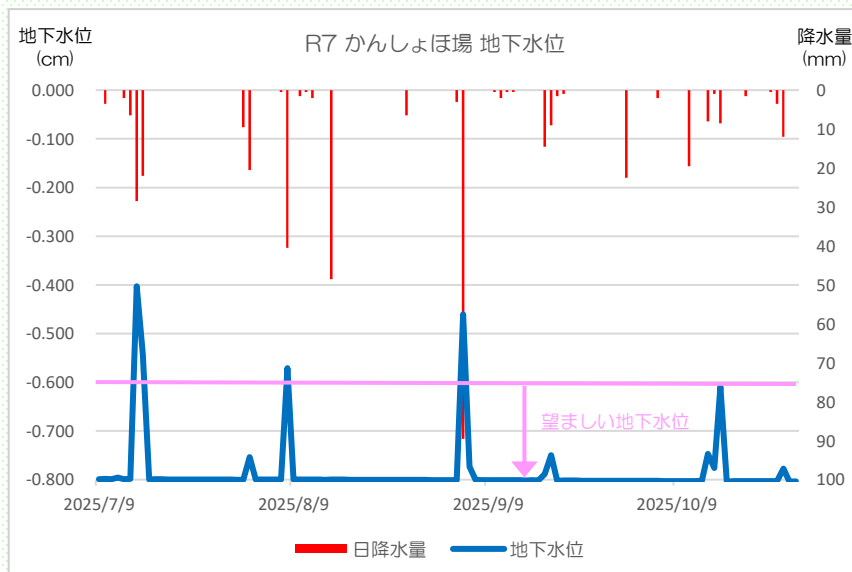
かんしょは水はけの良いほ場が適しており、望ましい地下水位は-60cm以下とされています。また、1日に30mm以上の雨が降った2~3日後には滞水がなくなるほ場が望ましいとされています。

調査ほ場は、ほ場整備によって暗渠が整備されているため、調査期間中、まとまった降雨が数回ありましたが、いずれも地下水位は-40cm以上になることはなく、暗渠の効果が確認されました。調査ほ場では昨年以上に排水性が高まったと判断されます。

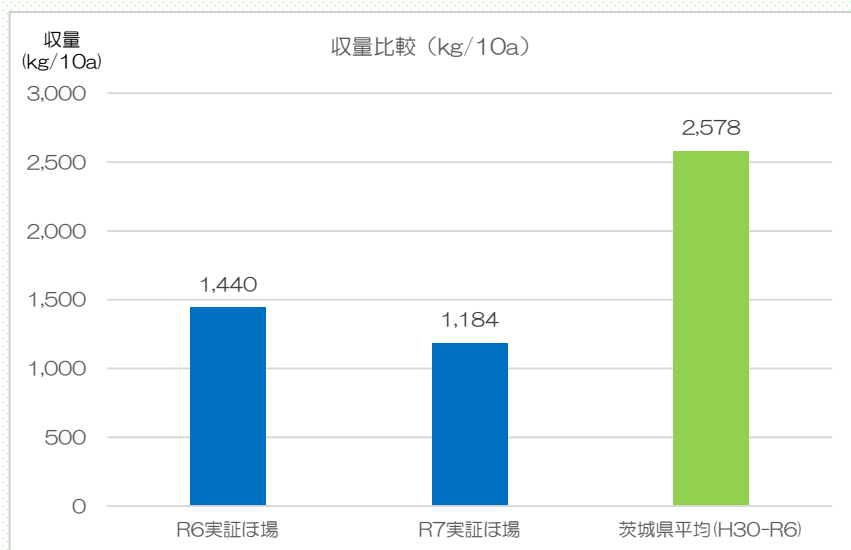
しかしながら、収量は茨城県の平均収量よりも低くなりました。定植期が遅れたことなどが要因と思われる、今後も収量向上に向けて改善を図る必要があります。



かんしょの生育状況



農家からの聞き取りでは、10a当たりの収量は1,184kgとなり、茨城県の平均収量 2,578kgと比較すると約54%低くなりました。



## 水田農業の省力化・生産性向上に係る勉強会を実施 ～乾田直播に関する勉強会～



茨城中部地区では事業により区画整理が進む中、大区画化されたほ場を最大限に活用した省力的な農業技術（スマート農業や直播栽培など）の導入等に向けて検討を進めているところです。

このような中、2/26（木）に茨城県県央農林事務所において、担い手農家の関心も高かった“乾田直播”をテーマとして水田農業の省力化・生産性向上に係る勉強会を開催しました。勉強会には、秋田県で乾田直播に取り組んでいるスガノ創新株式会社の担当者を招き、担い手農家や県、市町、全農などの関係機関から30名以上が参加しました。

勉強会では、乾田直播の課題である雑草対策や当地区での導入の可能性などについて活発な意見交換が行われ、予定時間を大幅にオーバーするなど参加者の関心の高さが伺われました。今後も勉強会を続け、ほ場での実証調査なども進める予定です。



勉強会の様子①



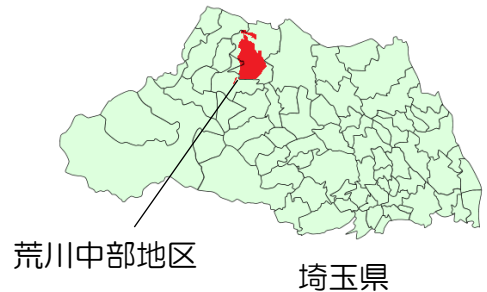
勉強会の様子②

# 国営かんがい排水事業「荒川中部地区」の取組

国営荒川中部地区（埼玉県）では、国営事業による農業水利施設の改修等と併せて、関連事業において用水路の改修と畑地かんがい施設の整備を進めています。このような中、かんがい施設が未整備の畑においては、天水に依存した農業経営を余儀なくされています。今回は、営農推進に向けた地区営農推進組織の取組を紹介します。

## ◇ 事業の概要

事業種：国営かんがい排水事業  
場 所：埼玉県本庄市、深谷市、寄居町  
受益面積：3,212ha（水田、普通畑）  
事業期間：H26年度～R8年度  
主要工事：頭首工、揚水機場、用水路等の改修



## 荒川中部地区農業農村整備事業推進協議会（営農検討部会） ～営農推進に係る講演会及び現地視察～

荒川中部地区では、地区営農検討部会が中心となって毎年、営農推進に係る講演会等を実施しています。

本年度は令和7年11月18日（火）に、推進協議会（営農検討部会）の主催で講演会および現地視察等を実施し、関係機関（県、市町、事業所など）をはじめ、JAや農家代表など30名以上が出席しました。

はじめに、営農検討部会の部会長である深谷市の農業振興課長から挨拶をいただき、続いて「完全有機・完全生分解性を有する超吸水性ポリマー」の開発者であるEFpolymer（株）を講師として招き、肥料の利用量削減や収量の増加に効果のある商品（EFポリマー）を紹介、併せて実証試験の成果を説明していただくなどの講演会を開催しました。

また、荒川中部地区では来年度、上大谷地区および榛沢新田地区において基盤整備事業を着工予定であることから、埼玉県大里農林振興センターより事業概要について説明を行い、上大谷揚水機場の現地視察を実施しました。



営農検討部会講演会



上大谷揚水機場視察

# 各種参考情報

## 全国の優良経営体事例を紹介

全国の優良経営体の取組事例を農林水産省のHPから閲覧可能です。是非ご覧ください。

URL : [https://www.maff.go.jp/j/nousin/nouti/einou\\_info/e\\_keiei\\_zirei/index.html](https://www.maff.go.jp/j/nousin/nouti/einou_info/e_keiei_zirei/index.html)  
 (または、農林水産省HP トップページから「優良経営体事例」で検索。)



## 農林水産省各種事業の逆引き辞典を紹介

農林水産業に関する各種事業を農林水産省のHPから検索可能です。

URL : <https://www.gyakubiki.maff.go.jp/appmaff/input/>



### 例) 機械購入の補助事業を調べたい場合

#### ①補助金をクリック



#### ②農業者、機械を買うなど該当する項目をチェックして検索をクリック



#### ③比較したい事業をチェックして比較するをクリック



#### ④事業概要が表示されますので、関心のある事業をクリック



#### ⑤事業内容が表示



## 本誌に関するご意見

記事に関するご意見  
 関心のある話題など  
 ご意見はこちらからお願いします

